

土産の刃物需要減、クラウドファンディングに活路

コロナ切り裂く

「御守刀はさみ」

ニッケン工業

新型コロナウイルスの影響で、土産用刃物のインバウンド(訪日外国人客)需要が落ち込む中、関市東貨上の刃物等製造ニッケン工業はインターネットで資金を募るクラウドファンディングを活用し、日本刀型の携帯はさみシリーズ「御守刀はさみ」を商品化するプロジェクトを進めている。新選組副長の土方歳三、一番隊隊長の沖田総司、織田信長を連想させる3種のモデル。目標額の50万円を2日間で達成し、その後も商品化を応援しようとする購入希望者が続出している。(富樫一平)



2日間でクラウドファンディングの目標額を達成した御守刀はさみのシリーズ

3種とも長さ10・5センチ。土方モデルは和泉守兼定、沖田モデルは大和守安定とそれぞれの愛刀をモチーフにしている。刃紋

目標50万円達成、商品化へ

のデザインなど細部の装飾が美しい。信長モデルは愛刀・へし切長谷部をモチーフとしており、鞘は黒と金色で信長の威厳を醸し出している。

はさみを入れて、持ち運びにも使える巾着袋のデザインにもこだわり、新選組をイメージさせる段だら模様と、和風の白と紫の2種を用意した。クラウドファンディングのウェブサイト「Makake(マカアケ)」



で、7月17日まで購入を受け付けている。

主に観光地向けに展開していた日本刀モチーフの商品の売り上げが3月以降急激に落ち込んだことから、クラウドファンディングを利用した試みで活路を見いだそうと考えた。熊田祐土社長は「反響の大きさに驚いている。今後は新たな商品のマーケティング調査の手段としても活用したい」と手心えを語った。

「新たなネット戦略で活路を見いだせた」と語る熊田祐土社長  
|| 関市東貨上、ニッケン工業